

福山市廃棄物減量等推進審議会議事録（抜粋）

2010年（平成22年）2月24日
14時00分～15時30分
福山市役所6階 60会議室

出席者

委員：高田委員，三吉委員，佐藤委員，羽原委員，占部委員，客本委員，福永委員，古川委員，尾方委員，福井会長，藤井副会長，馬場委員，瀬良委員，開原委員

事務局：経済環境局長，環境部長，環境部次長兼環境総務課長，環境保全課長，廃棄物対策課長，環境啓発課長，福山クリーンセンター所長，南部環境センター所長，環境総務課補佐兼次長，環境総務課庶務担当次長，廃棄物対策課廃棄物第1担当次長，廃棄物対策課廃棄物第2担当次長

2009年度（平成21年度）の取組について

発言者	質 疑	回 答
福井会長	ごみ排出量が減ってきて減量目標を前倒しできる見通しですが，達成した段階で目標を再設定するのですか。	目標を達成する見込みなので，来年度から2ヵ年かけて一般廃棄物処理基本計画の見直しを行う予定です。
藤井副会長	資源回収量の実績がマイナスになっているが，何か理由はありますか。	経済情勢の影響と啓発効果の表れだと考えます。
福井会長	ごみは4%近く減っているのに対し，回収実績は約10%減っているが，回収実績が鈍っているのですか。	市民団体による回収を基本としています。また，環境部各施設等でも拠点回収を行っています。しかし，経済情勢の影響があると考えます。
客本委員	プラスチック製容器包装に係る再商品化における地域連携モデル事業について2年かけて実施されるようだが，地域や住民へのフィードバックは行われるのですか。	出前講座，組成分析調査，アンケート等を実施していく中で，情報の共有化を図っていきたいと考えています。
福井会長	モデル地区の選定は公募だが，どのくらいの数の応募があったのですか。	今年度は2ヶ所選定しました。来年度は4月の広報で公募する予定です。
占部委員	公募して協力した町内会には補助金等出るのですか。	国の補助金によって実施している事業で，啓発資材や現地見学の経費に使います。
占部委員	プラスチックごみの分別について出前講座を行ってもらった。汚れているプラスチックは燃やせるごみにと指導を受けたが，燃やせるごみが増えた。また，水で洗うのが手間という声や水資源がもった	啓発では，水道を利用するのではなく，お皿を洗った後の汲み置きの水等の利用をお願いしています。地球温暖化が問題になっていますが，燃やすと二酸化炭素が発生します。しかし，リサイクルす

	いないという声があります。	れば燃やさないので、二酸化炭素の削減にもつながると考えます。
藤井 副会長	出前講座の前と後では意識変化があり、回収率も上がっています。一点目は地域連携モデル事業における市の予定、二点目に目的に市民の意向を踏まえてとありますが、具体的な内容を教えてください。	一点目について、1年目はモデル地区の選定を行い、2年目は市全域に啓発を進めていき、燃やせるごみに混ざっている容器包装プラスチックを資源化していきたいと考えています。二点目はアンケート調査等市民の皆さんの意見やアイデアを聞きながらやっていきたいと思えます。
古川委員	モデル地区はどのような基準をもって選定するのですか。	具体的な基準はありませんが、偏ってもいけないので、数は不確定ですが、予算の限りもあるので、市域全体からまとまって協力してもらえ、意欲のある地域を選定したいと考えています。
福井会長	資料にあるモデル地区において組成分析調査の結果が異なるが、標準的なのはどちらですか。	平均的なのは、伊勢丘町内会だと思います。
古川委員	若い世代と高齢者では、それぞれ課題も異なると思うが、これからの高齢化社会のことも考慮する必要があると思えますが。	言われているとおりで、組成分析調査を実施し、総合的に判断していきたいと思えます。
福井会長	ケミカルリサイクルについて教えてください。	ケミカルリサイクルは化学反応を一部利用して、一部はサーマルでとる高炉原料化を指します。鉄鉱石を還元するのに炭素が必要だが、そこにプラスチックを利用するものです。
高田委員	資源ごみ等を回収している業者がいるが、回収されているものは適正に処理されているのですか。	ごみとして輸出できないバーゼル法も制定されているので、適正に処理されているものと考えます。 家電につきましては、家電リサイクル法がありますので、手続きに従って処理していただくようお願いをしています。
福井会長	2009年度のエコでえ～ことキャンペーンの達成状況を教えてください。	3ヶ月実施しまして、レジ袋削減は155万枚、ごみの削減量は15.4トン、二酸化炭素の削減量は74トンです。

古川委員	ごみの減量の補助金に関して、この年度の団体数の推移、増減があるが、どのように啓発しているのか。	環境啓発課、制度、パンフレット、インターネット等で啓発しています。市の方で協働のまちづくりに取り組んでいることもあり、連携して資源を回収していきたいです。
------	---	---

全体を通して

発言者	質 疑	回 答
三吉委員	出前講座は市全体で年間どのくらい行っているのですか。	2008年度は8,572人で、2009年度はこの人数より多くなると思います。今後も要望や地域のニーズに応じていきたいと思います。
	プラスチック製品について、プラマークがない製品は、燃やせるごみという風に解釈していいのですか。	容器リサイクル法の関係で、プラマークがついていないものは燃やせるごみに出してくださいとお願いしています。また、プラマークがついているものでもあまりに汚れたものはリサイクルできませんので、リサイクルするためにもかるくゆすいで汚れを落としてもらってだしてもらいをお願いしています。
客本委員	出前講座について、プラスチックごみの分別がメインになっていると思いますが、地域のニーズによって内容が変わるということですが、具体的にどういったものがありましたか。	当日出前講座を行う職員が地域がかかえている問題について個別に話を聞きながらやっています。ごみの分別に関することが多く、また身近な地球温暖化問題に関することもありました。